

組	番	修習地	班	経歴※	氏 名

※ 経歴は、LS修了(既修)=1、LS修了(未修)=2、LS入学したが修了していない=3、
LS入学していない=4から選択してください。

導入修習チェックシート（第78期）

※ 1～7の(1)については、各項目に、以下の1～3の中から最も当てはまるものを記入してください。

1：課題を感じた。 2：やや課題を感じた。 3：課題を感じなかった。

1 民事関係（共通）

(1) 知識・能力の項目ごとに、前記※の1～3から当てはまるものを選んで「回答欄」に記入してください。

- | | |
|--|--|
| ☐ ア 事実関係に応じてその法的処理にふさわしい法規範を選択・適用できる民事実体法の知識 | ☐ エ 主張分析・法的構成に関する基礎的知識・理解 |
| ☐ イ 訴訟進行の各段階において、問題状況に応じて適切に選択・適用できる民事訴訟手続の知識 | ☐ カ 事実調査に関する基礎的知識・理解 |
| ☐ ウ 要件事実の考え方 | ☐ ク 文章表現能力 |
| ☐ オ 事実認定に関する基礎的知識・理解 | |
| ☐ キ 口頭表現能力 | |
| ☐ ケ その他（ ） | |

(2) どのような場面・理由で課題を感じましたか(必要に応じ(1)ア～ケの項目を示してください。複数選択可。)

2

民事裁判

(1) 以下の各能力について、前記※の1～3から当てはまるものを選んで「回答欄」に記入してください。

- ☐ 主張分析能力 ☐ 事実認定能力 ☐ 紛争解決能力

(2) (1)で課題を感じた能力の修得のため、民裁実務修習で重点的に取り組みたい項目を選び、以下の括弧内にその内容を詳しく記載してください。

- ☐ 記録の検討 ☐ 期日等の傍聴 ☐ 起案 ☐ 指導担当者との質疑応答 ☐ 判例・文献等の調査
☐ その他（具体的に記載してください。）

(3) (1)で課題を感じた能力の修得のため、どのような自学自修を行いたいと考えているかを具体的に記載してください。

3

民事弁護

(1) 以下の各領域に対する自分の理解度はどの程度だと思いますか。前記※の1～3から当てはまるものを選んで「回答欄」に記入してください。

- ☐ 事情聴取と事案分析 ☐ 主張書面の作成 ☐ 証拠の収集・分析と立証 ☐ 和解条項の作成
☐ 民事保全・民事執行の意義と手続 ☐ 弁護士倫理・職責

(2) (1)で記載した内容を踏まえ、実務修習の期間を通じて、どのような学修をしたいと考えますか。自学自修の計画も含めて自由に述べてください。

4	刑事関係（共通）
(1) 知識・能力の項目ごとに、前記※の1～3から当てはまるものを選んで「回答欄」に記入してください。 ☐ ア 事実関係に応じてその法的処理にふさわしい法規範を選択・適用できる刑事実体法の知識 ☐ イ 捜査・公判の各段階において、問題状況に応じて適切に選択・適用できる刑事訴訟手続の知識 ☐ ウ 主張分析・法的構成に関する基礎的知識・理解 ☐ エ 事実認定に関する基礎的知識・理解 ☐ カ 口頭表現能力 ☐ ク その他（ ） ☐ オ 事実調査に関する基礎的知識・理解 ☐ キ 文章表現能力	
(2) どのような場面・理由で不足・課題を感じましたか（必要に応じ(1)ア～クの項目を示してください。複数選択可。）。 	
5	(1) 以下の基礎的な理解について、前記※の1～3から当てはまるものを選んで「回答欄」に記入してください。 ☐ 令状請求の判断に必要な基礎的知識・理解 ☐ 公判手続の進行に必要な基礎的知識・理解 ☐ 公判前整理手続での主張・証拠の整理に必要な基礎的知識・理解 ☐ 争点判断のための事実認定に必要な基礎的知識・理解
	(2) (1)で課題を感じた理解を深めるため、刑裁実務修習で取り組みたいと考えていることと、実務修習中、どのような自学自修が必要と考えているかを記載してください。
6	(1) 以下の基礎的知識・能力について、前記※の1～3から当てはまるものを選んで「回答欄」に記入してください。 ☐ ア 捜査の進展に伴う事実認定（動的事実認定） ☐ エ 終局処分（☐ 犯人性の認定 ☐ 犯罪の成否等） ☐ イ 補充捜査 ☐ オ 公判活動 ☐ ウ 取調べ ☐ カ 決裁等口頭報告 (2) (1)で選択した項目について、どのような場面で不足・課題を感じたか、実務修習中、どのような方法で学修したいと考えているかを記載してください（必要に応じ(1)ア～カの項目を示してください。複数選択可。）。
	(3) 実務修習で経験したいことや受けたい指導があれば記載してください。
7	(1) 以下の各項目の理解に関し、前記※の1～3から当てはまるものを選んで「回答欄」に記入してください。 ☐ ア 初回接見において、何をどのように、どの順番で聴取・助言すべきか。 ☐ イ 勾留阻止（を含む、身体拘束からの解放）のために、どのタイミングで、どのような活動をすべきか。 ☐ ウ 想定弁論は、何のために、いつ、どのようなプロセスで作成し、何を語るべきか。 ☐ エ ケースセオリー及び誠実義務に即した弁護のため、公判前整理手続の各段階でいかなる弁護活動をすべきか。 ☐ オ 裁判員裁判事件の量刑弁論において、何を語るべきか。そのために、どのような弁護活動をすべきか。
	(2) 特に課題を感じた項目（複数可）に関し、(1)ア～オの項目を示し、その理由を記載してください。また、実務修習で経験したいことや受けたい指導があれば記載してください。